

今やスマートフォン／タブレット端末に関心を示さない企業はないと言っていいだろう。

直感的かつ軽快に操作できるUI、見やすい画面、起動の速さといった特徴を備えるこれら「スマートデバイス」に対する期待は高まるばかりだ。当初は、iPhone／iPadなどの先進事例が相次いで報じられる一方で、“本当に業務に使えるのか”“使って大丈夫なのか”と様子見の企業も少なくなかったが、今では様相はすっかり変わった。

何よりも、この新しい端末を導入することで企業を変え、ワークスタイルを変え、組織を活性化し、ビジネスを変革できるのではないかという期待感が高まっている。そして、どの業務に活用すれば効果が上がるのか、端末が多様化するなかでどれを選べばいいのか、さらに導入に当たっての課題とその解決法は何かと、課題を具体的に検討し、本格導入を見据えた動きが多く企業で始まっている。

こうした企業ユーザーの変化は通信系ディーラー、SIer/NIerに1つの飛躍を追っている。業種業態を越え、

あらゆる企業に広がり始めているスマートデバイス導入・活用ニーズに応え、その企業に最適なICTシステムを提案する力を持つことは、もはや通信ビジネスにとって必須の条件になりつつあるのだ。

ネットワンシステムズのビジネス推進グループマーケティング本部プロダクト・マーケティング部第2チームの山本祐樹氏は「プル型の商談がものすごく増えている。お客様はスマートフォンやタブレットをどう使えば良いのかを真剣に考えている」と話す。数百台規模の導入案件が進行中で、商談レベルでは1社で数千台の導入を検討する企業も出てきているという。こうした状況は、大手SIer/NIerだけではなくなっている。

ここでは、企業がスマートデバイスを導入する場合の課題を整理し、システム構築、運用、管理などの対策について考えていくことにする。

超えるべき3つのハードル

スマートデバイス導入のポイントが大きく、次の3つに分けられる。

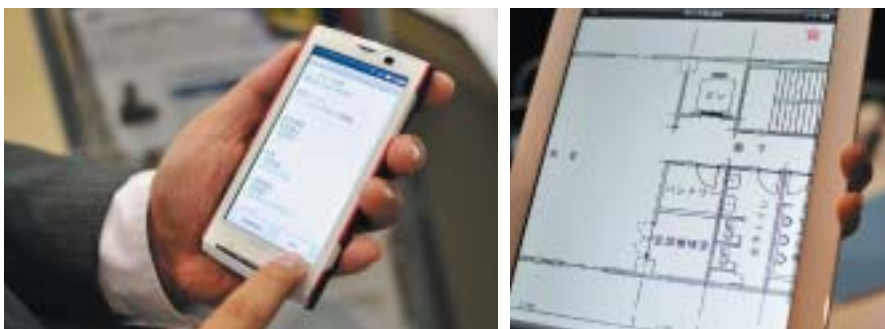
1つ目は、利用用途の明確化と、それに応じて適切な端末・回線を選ぶ

ことだ。スマートフォンとタブレット端末は、携帯電話とノートPCの中間領域を埋める端末と表現されることが多い。もちろん間違いではないが、画面の大きさやモビリティの高さだけでないスマートデバイスならではの特性と、それを発揮できる利用シーンを把握する必要がある。

また、本格導入が進むことでより重要度が増すのがセキュリティ対策だ。これまではメール・グループウェアの利用や、タブレット端末で電子カタログを閲覧したり、営業のプレゼンテーションに使ったりといった利用形態が主流だった。だが今後は、社内の業務システムとより深く連携し、顧客データなどの重要情報を扱う業務への適用が増える。社内ネットワークへ安心・安全にアクセスする仕組みや、マルウェア対策なども不可欠になる。これが2つ目のポイントだ。

3つ目は運用管理の効率化だ。携帯電話やノートPCに加えて新たな端末が増えるだけでも大変なうえ、iOSやAndroid端末を管理した経験を企業は当然持ちあわせていない。端末の不正利用の防止、盗難・紛失対策といったセキュリティ対策と密接に関連する要素に加え、例えば業務アプリの配付・インストールに伴う手間を軽減し、効率的に管理する仕組みも必要になってくる。

Part1では多様化する端末の現状とその効果的な活用法を、Part2ではスマートデバイスの最大の弱点とされているセキュリティ対策と、悩みのタネと思われる端末管理の方法について見ていく。



スマートフォンはクラウド型の業務アプリケーション利用、タブレット端末は電子ドキュメントの閲覧といった相性の良いソリューションとの組み合わせで、確実に企業に浸透し始めている。左は、エスケイが提供するクラウド型の業務報告システム「フィールドプラス」。右はハイパーギアのiPad用文書閲覧システム「HGView1.4」。CAD図面や機密文書などをセキュアな環境で閲覧できる